

歯科 りレニク

(12)

2009年はNASA設立50周年、アポロ11号月面着陸40周年にあたります。30年続いたスペースシャトル計画も2011年2月、134回目の打ち上げをもって終了することがわかつっていました。ふとロケット研究に没頭していた少年時代の夢の地でシャトルの実物を見たい衝動にかられ、昨年夏に家族を引き連れ現地に赴くことになりました。

成田からヒューストンを経由してオーランドに到着、近隣のディズニーワールド内のホテルを拠点に活動しました。勿論、ディズニーワールドは山手線の内側の1.5倍もの広さがあり、思いっきり楽しむにも十分過ぎる程でしたが、私の気持ちは既に宇宙に向かっていたのです。

ケネディ宇宙センターの一般入口はビジターセンターになります。ここでは各時代の主なロケットや宇宙船の実物が展示され、特にサターン5型ロケットは直径10m・全長110mとスペースシャトルも真っ青な程に巨大で他を圧倒していました。シャトル搭乗模擬体験もしました。また同時にアポロ月面着陸40周年記念展も開催中で、世界中に分散していた貴重な資料が結集し見

応えがありました。

いよいよ専用バスで広大なケネディ宇宙センターへ乗り込みます。スペースシャトル組み立てビル(VAB)、ケープカナベラル空軍基地(アポロ以前の有人衛星計画及び人工衛星を打ち上げる基地)、アポロ及びスペースシャトル計画のロケット発射台39A・39B等が間近に見られ壯觀でした。発射台の片方には128回目のスペースシャトルが設置され、他方は次期コンステレーション計画用に改装工事中でした。



サターン5型ロケットの巨大さがわかります

NASA (ケネディ宇宙センター)

富山市・歯科

森井 忠晴

ここに来て40年前(高校1年)の夏にアポロ11号月面着陸の実況中継を見た時の様子が蘇ってきて、若き日に宇宙に果てしなき夢を追った自分を懐かしくまた愛おしく思いました。

ところが、今年の2月アメリカ合衆国大統領オバマ氏からスペースシャトル計画後のコンステレーション計画(NASAが進めていた有人宇宙機計画で、新型ロケットと、新宇宙船・新着陸機から構成される。これらの宇宙機は多様なミッションに適合し、国際宇宙ステーションの輸送や月着陸に供される予定だった。)を中止し、以後

の有人火星探査計画も白紙に戻すと言う声明が発表されました。米ソ軍事戦略競争が消えた今、財政的にも余裕のない米国にとって苦渋の選択であったにせよ、未知への探求に水をさしたこの事実に私はショックを隠せませんでした。

その後オバマ氏は選挙等への影響を鑑み、2030年迄に火星探査を実現するという声明を発表し何とか希望の火は残りましたが、未だ安心できる情勢とは思えません。

近年、中国やインドの国威発揚や覇権主義が宇宙にまで及び大変心配です。宇宙の未知なるロマンが壊されないように、アメリカ合衆国やロシアは先導者の責任として今こそ秩序を示すべきですし、日本も意見すべきです。日本はハヤブサやあかつき等知的探求型宇宙開発が夢もあるし、日本に似合っています。独自の道標を作つてそれを貫いて行って欲しいものです。



参加者は一般市民を含め三八八人、医学生も三〇人ほど参加していました。私は、核兵器廃絶をめざす富山医師・医学者の会から参加させていただきました。

一日目の記念企画は、井上ひさしの戯曲「父と暮らせば」のひとり読み語りでした。被爆にあいながら生き残つてしまい、幸せになれる娘が、幽霊として現れる父親との暮らしの中で、生きることへの罪悪感を持ついる事への悲惨さというものが、原爆の悲惨さ

作りながら、原爆の悲惨さがひしひしと伝わり、話に引き込まれ涙が止まりませんでした。

二日目のシンポジウムは

三八八人、医学生も三〇人ほど参加していました。私は、核兵器廃絶をめざす富山医師・医学者の会から参加させていただきました。

一日目の記念企画は、井上ひさしの戯曲「父と暮らせば」のひとり読み語りでした。被爆にあいながら生き残つてしまい、幸せになれる娘が、幽霊として現れる父親との暮らしの中で、生きることへの罪悪感を持ついる事への悲惨さというものが、原爆の悲惨さ

作りながら、原爆の悲惨さがひしひしと伝わり、話に引き込まれ涙が止まりませんでした。

二日目のシンポジウムは

三八八人、医学生も三〇人ほど参加していました。私は、核兵器廃絶をめざす富山医師・医学者の会から参加させていただきました。

一日目の記念企画は、井上ひさしの戯曲「父と暮らせば」のひとり読み語りでした。被爆にあいながら生き残つてしまい、幸せになれる娘が、幽霊として現れる父親との暮らしの中で、生きることへの罪悪感を持ついる事への悲惨さというものが、原爆の悲惨さ

作りながら、原爆の悲惨さがひしひしと伝わり、話に引き込まれ涙が止まりませんでした。

二日目のシンポジウムは

三八八人、医学生も三〇人ほど参加していました。私は、核兵器廃絶をめざす富山医師・医学者の会から参加させていただきました。

一日目の記念企画は、井上ひさしの戯曲「父と暮らせば」のひとり読み語りでした。被爆にあいながら生き残つてしまい、幸せになれる娘が、幽霊として現れる父親との暮らしの中で、生きることへの罪悪感を持ついる事への悲惨さというものが、原爆の悲惨さ

作りながら、原爆の悲惨さがひしひしと伝わり、話に引き込まれ涙が止まりませんでした。

二日目のシンポジウムは

三八八人、医学生も三〇人ほど参加していました。私は、核兵器廃絶をめざす富山医師・医学者の会から参加させてきました。

一日目の記念企画は、井上ひさしの戯曲「父と暮らせば」のひとり読み語りでした。被爆にあいながら生き残つてしまい、幸せになれる娘が、幽霊として現れる父親との暮らしの中で、生きることへの罪悪感を持ついる事への悲惨さというものが、原爆の悲惨さ

作りながら、原爆の悲惨さがひしひしと伝わり、話に引き込まれ涙が止まりませんでした。